

「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク（ARRN）の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。

目次

	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ.....	1
➤ 会員寄稿記事.....	5
➤ 研究・事例紹介.....	10
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ.....	12
➤ 会議・イベント案内.....	13
➤ 書籍等の紹介.....	13
➤ 会員募集中.....	14

JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

「小さな自然再生」事例集制作プロジェクト進捗報告 ～11/26 座談会開催のご案内

JRRN では、市民が河川管理者と連携して日曜大工的に取り組める「小さな自然再生」に関わる事例集の制作を、編集委員会を立ち上げて協働で進めており、10月の活動を簡単にご報告させていただきます。

10月の活動では、第2回編集委員会（9/18）での協議を受け修正した事例原稿案について、編集委員全員による査読作業、校閲担当委員及び各執筆者による修正作業を経て、暫定的な最終版（デザイン・校正前）の原稿が出揃ってきたところです。

【1】「小さな自然再生」座談会の開催案内

先月の Newsletter でもお伝えしましたとおり、「小さな自然再生」に関わる全国の取組みの現状と課題を踏まえ、関係省庁の施策との共通項（関連性）を見出

- 座談会名：「小さな自然再生」事例集制作座談会
～小さな自然再生が中小河川を救う！
更なる推進に向けた方策を探る～
- 開催日時：2014年11月26日（水）10:00～12:00
- 開催場所：（公財）リバーフロント研究所会議室
（東京都中央区）
- 座談会座長：玉井信行（東京大学名誉教授、
JRRN/ARRN 顧問）
- 座談会参加者：
 - 鳥居敏男（環境省自然環境局自然環境計画課長）
 - 中村圭吾（国土交通省国土技術政策総合研究所
河川研究部河川研究室 主任研究官）
 - 岩瀬晴夫（（株）北海道技術コンサルタント）
 - 浜野龍夫（徳島大学大学院教授）

し、身近な河川・水辺での自然再生活動への市民参加の更なる推進に向けた方策を導き出すことを趣旨とした座談会を開催致します。

本座談会は、若干名（10名程度）ではありますが、JRRN 会員限定の公開行事とさせていただきます。傍聴をご希望される方は以下の方法にてお申込み下さい。

- 申込方法： JRRN 事務局（info@a-rr.net）まで
メールでお申込み下さい。※先着順
- 申込〆切： 2014年11月21日（金）午後5時

座談会の内容は、事例集並びに会議録として、皆様にご報告させていただきます。

【2】島谷幸宏教授インタビュー

座談会出席者としてお願いする予定でしたが、あいにくスケジュールの調整が叶わなかった島谷幸宏教授（九州大学）へ、「小さな自然再生」に関するインタビューを行うことが決まりました。島谷教授は、「小さな自然再生」自由集会のきっかけを作っていただいた方で、多自然川づくり研究会座長というお立場からも、今後の中小河川の川づくりのあり方について貴重なご意見が伺えると思います。インタビューの内容は、事例集の中でもご紹介させていただきます。

年末の事例集完成に向けて、編集委員及び事務局一同忙しい作業が続いておりますが、より良い成果を皆様にご提供できますよう頑張っております。なお、本活動は（公財）河川財団の河川整備基金の助成を受けて実施しています。

（JRRN 事務局・後藤勝洋）

ECRR-ARRN 技術交流会(兼:第 11 回 ARRN 国際フォーラム)開催報告(10/29)

10月29日(水)17:30~19:30、第11回ARRN国際フォーラムを兼ねた欧州河川再生センター(ECRR)とARRNの技術交流会がオーストリアのウィーンにて開催されました。

ARRN国際フォーラムは、参加国それぞれの水辺・流域再生に関する最新情報や課題等の発表を通じ、技術の共有・向上を図ることを目的に実施しているものですが、本年は、ECRRとARRNの交流行事として、欧州河川再生会議(<http://www.errc2014.eu/>)に合わせて開催する運びとなりました。

交流会の前半では、ARRNメンバー国(中国・韓国・日本)による各国の河川再生の取組み紹介、ERRCによる欧州の河川再生の取組み紹介、国際河川財団による国際河川賞と欧州河川賞に関する取組み紹介が行われ、交流会の後半では、今後のECRRとARRNの協働について会場全体での討議が行われました。

また、本交流会の最後には、河川再生に関わるARRNとECRRの更なる交流に向けたMOU(覚書)が取り交わされ、ARRNのLiu会長とECRRのBart会長による署名式が執り行われました。

本フォーラムのプログラム及び各講演の概要を紹介します。



ECRR-ARRN 技術交流会の様子

■ ECRR-ARRN 技術交流会 (兼 : 第 11 回 ARRN 国際フォーラム) のプログラム

(1)日時 : 2014 年 10 月 29 日 (水) 17:30~19:30

(2)場所 : Tech Gate Vienna (オーストリア・ウィーン)

(3)主催 : ヨーロッパ河川再生センター
アジア河川・流域再生ネットワーク

(4)プログラム :

-17:30-17:45 **Dr. Tong Chang**

(中国 CRRN・Beijing Runheng Ecological Environment Improvement Co.)

講演題目 : 生態系保全に基づく **Nanxi 川**における環境流量に関わる研究

(Research on ecological flow of Nanxi River based on ecological conservation objective)

-17:45-18:00 **Prof. Jang, Suk-Hwan**

(韓国 KRRN・Darjin 大学)

講演題目 : **KRRN** の主要な活動と河川再生の研究 (Major Activities and Research on River Restoration of KRRN)

-18:00-18:15 土屋信行・小野寺翔

(日本 JRRN・公益財団法人リバーフロント研究所)

講演題目 : 日本の河川再生と **JRRN** の役割 (River Restoration in Japan and role of Japan River Restoration Network)

-18:15-18:35 **Mr. Bart Fokkens**

(欧州河川再生センター)

講演題目 : 欧州の河川再生と **ECRR** (River Restoration in Europe and the ECRR)

-18:35-18:55 **Mr. Nick Schofield**

(国際河川財団)

講演題目 : 国際河川賞と欧州河川賞 (Thiess International Riverprize and the European Riverprize)

-18:55-19:20 ECRR と ARRN の協働に向けた討議

-19:20-19:30 ECRR-ARRN 連携協定(MOU)

締結式、記念撮影

■ 講演 1：「生態系保全に基づく Nanxi 川における環境流量に関わる研究」

(Dr. Tong Chang, Beijing Runheng Ecological Environment Improvement Co.)

中国東部の浙江省を流れる Nanxi 川には、60 種を超える魚類や甲殻類が生息していますが、1990 年代よりアユが絶滅に瀕しており、現在は保護管理が行われています。この研究では、アユの生活史、Nanxi 川の過去の水文統計や水理指標を分析し、Nanxi 川におけるアユの生態に最適な月毎の環境流量が示されました。

■ 講演 2：「KRRN の主要な活動と河川再生の研究」

(Prof. Jang, Suk-Hwan Daejin 大学)

KRRN では、ウェブサイトやメール配信での情報発信のほか、フォーラム、セミナー、技術交流や研修なども開催しており、国内だけでなく中国、日本、モンゴルとも交流を行っています。

また、河川再生の研究例として、「放棄された水路の再生」と「部分的に植栽した水路における植生と河川形態の相互作用の季節的動態」が紹介されました。



「放棄された水路の再生」における整備前後比較写真

■ 講演 3：「日本の河川再生と JRRN の役割」

(土屋信行・小野寺翔 公益財団法人リバーフロント研究所)

冒頭、JRRN 土屋代表より、動画を交えながら、日本の河川再生の変遷の概要が説明されました。続いて、JRRN 事務局より、日本における河川再生の個別事例（牛津川、和泉川、釧路湿原、円山川、木曽川、隅田川、京橋川、道頓堀川）と JRRN の活動が紹介されました。



釧路川における蛇行河川復元の整備前後比較写真

■ 講演 4：「欧州の河川再生と ECRR」

(Mr. Bart Fokkens 欧州河川再生センター)

生態系をベースとし、持続可能な水管理と統合した河川再生のため、人や組織を繋ぎ、河川再生の発展をサポートすることが ECRR の展望であり、これを実現するため、情報発信やナショナルセンター（国ごとのネットワーク）の設置などを行っています。

また、最近の活動として、河川再生プロジェクトのウェブ上のデータベースである「River Wiki」の紹介、毎年行われる欧州河川再生会議を欧州河川賞と一緒にに行っていることなどが説明されました。



ECRR 関係者の集合写真

■ 講演 5：「国際河川賞と欧州河川賞」

(Mr. Nick Schofield 国際河川財団)

国際河川財団（IRF）は、世界の河川と流域の再生・保護・持続可能な管理の促進を目的とした慈善団体であり、河川賞のほか、奨学金支給や国際河川シンポジウムなども行っています。

現在、IRF の河川賞は国際河川賞を筆頭に、欧州河川賞、北米河川賞、オーストラリア河川賞など 6 種類があり、受賞河川は世界中に広がっています。また、欧州河川賞の受賞河川は、自動的に国際河川賞の選考対象となるシステムがとられています。

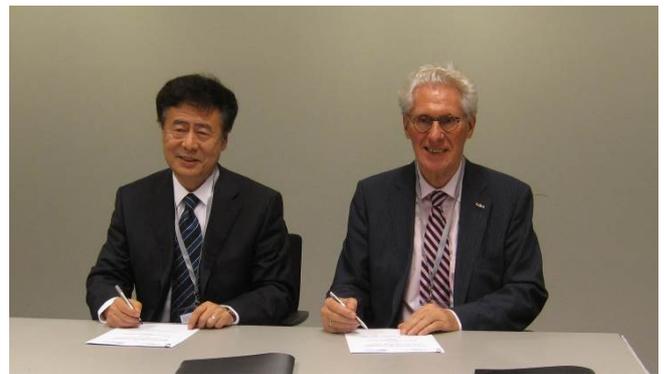
河川賞を実施する利点として、優秀な河川再生・保護の紹介媒体となること、賞金が河川再生活動のインセンティブとなること、国際的なネットワークが構築できることなどが説明されました。

また、1998 年から毎年、国際河川シンポジウムをオーストラリアで開催していますが、2016 年はアジアで開催したいとのことでした。



IRF 河川賞の受賞河川

全体討議では、「今後の ECRR と ARRN の協働」をテーマに意見交換が行われ、欧州とアジアでは地理的・社会的に河川再生の背景や状況は異なるものの、定期的に情報を交換し、確実につながりを維持していくことが大切であるとの結論となり、河川再生に関わる ARRN と ECRR の更なる交流に向けた MOU (覚書) が取り交わされました。



ARRN の Liu 会長 (左) と ECRR の Bart 会長 (右) による MOU 署名式の様子

なお、本フォーラムの各講演資料は以下のホームページよりダウンロードできます。

※ECRR-ARRN 技術交流会報告ページ

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/public/296>

※ARRN-ECRR の MOU (覚書) 締結報告ページ

<http://jp.a-rr.net/jp/news/info/510.html>

(JRRN 事務局・小野寺翔)

JRRN 事務局からのお知らせ (3) JRRN Activity Report

第 9 回 ARRN 運営会議開催報告(10/27)

10月27日(月)午後、アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の「第9回運営会議」がオーストラリア国・ウィーン市にて開催されました。

はじめに、Zhiping Liu ARRN 会長より、初のアジア以外での開催となる今回の ARRN 諸行事に向けた関係者による準備に対するお礼、また欧州とアジアの河川再生分野の交流を通じて更なる国際連携を構築していく旨の開会挨拶を頂きました。また、会議参加者の紹介に続き、過去1年間の ARRN 及び日本・中国・韓国ネットワークそれぞれの活動が報告されました。

続いて、ARRN の更なる発展に向けた今後の ARRN 活動計画として、以下についての審議と意見交換を行い、ARRN 設立から9年目となる新たな活動が始まりました。

- ・第7回世界水フォーラムでの ARRN 活動企画
- ・欧州河川再生ネットワークとの更なる交流促進
- ・アジア会員増加に向けた取り組み
- ・次期 ARRN 事務局及び来年の運営会議開催場所等



本会議では、来年4月の第7回世界水フォーラム(韓国)において ARRN のサイドイベントを開催すること、その行事を日中韓以外のアジアの国々にも ARRN 活動参加を促す機会とすること、また ARRN 規約に基づき、現在 CRRN (中国) が担う ARRN 事務局を、来年4月の世界水フォーラムに合わせて KRRN (韓国) に移管することなどが決まりました。

各国 RRN の 2014 年活動報告や本会議参加者等は以下でご覧いただけます。

<http://jp.a-rr.net/jp/news/info/503.html>

(JRRN 事務局・和田彰)



川系男子の『川と人』めぐり No. 29～桜川～

坂本貴啓 (筑波大学大学院 システム情報工学研究科 博士後期課程 白川直樹研究室『川と人』ゼミ)

『川と人』
めぐり

研究室のゼミ名『川と人』ゼミという言葉をもじって、『川と人』めぐりのタイトルで連載していきます。テーマは川と人。川が好きでしようがない『川系男子』が川めぐりをしながら、川への思いや写真・動画などをご紹介していきます。

♪夕空はれて秋風吹き 月影落ちて鈴虫鳴く
思えば遠し故郷の空 ああわが父母いかにおわす

(明治唱歌『故郷の空』 作詞：大和田建樹，作曲：スコットランド民謡)



図1 夕時の桜川と筑波山系(宝鏡山)

1. 黄昏の川

真夜中の更け行く夜空には冬の星座が南中してくる季節となった。周囲の木々も色づき始め、秋も深まりだした。2014年10月19日の夕方、自転車で近くの川までふらりと出かけた。筑波大学のキャンパスから東へ2 kmほどいったところに桜川が流れている。大学から近い川ということもあり、時々なんの用も無いのに行きたくなることもある。

皆さんは川に行きたくなる瞬間はどんな時だろうか。運動したい時、生物と触れあいたい時、あるいは落ち込んだ時や辛い時、忙しさから抜け出したい時など色んな場面があるだろう。物事に対し、自身のピントが合わなくなる瞬間は誰しも経験があると思うがそんな時、川に行きただじっと川の流れをみつめていると自身が色んな雑念から抜け出すことができる。私にとって頭の中を整理するのに川はとて

も有効な場である。

桜川に着いた頃には日没が迫っており、川面は少し頬を染めていた(図1)。田園地帯の中に身を置き、遠くに筑波山を望むことができる。わずか川幅 10m ほどの田園地帯を流れる小さな川だが、これが癒しを求めて訪れる人には心地よい。桜川の堤防に腰掛け、川をみつめた。近くで聴こえる川のせせらぎ、遠くで聴こえる野鳥の鳴き声、時々、大きな魚が川の中から飛び出し、水面をたたく。乾き気味の心がじわりじわりと満たされていく。

ピントが合わなくなった時の川での黄昏は重要な時間である。

2. 桜川の概要

桜川は水系の支流で、桜川市の鋸柄山(274.5m)に源を発し、水源池である鏡ヶ池から流れ出る。旧岩瀬町、旧大和村、旧真壁村のあたりを通り、筑波山麓の田園地帯を流下し、最下流部で土浦市の中心街を貫流し、霞ヶ浦に注ぐ流路延長約 63 km、流域面積約 350 km²の河川である。古くは筑波川、伊佐々川とも呼ばれていた。古くから桜の名所(特に磯部稲村神社付近)として有名で、「西の吉野、東の桜川」と並び評されるほどである。桜川市の磯部稲村神社参道周辺の桜川磯部公園のヤマザクラは「桜川のサクラ」として国の天然記念物にも指定されている。桜川周辺の美しさは平安時代から有名で、紀貫之のこんな歌碑も残されている。

いつよりも 春べになれば 桜川 波の花こそまなくよすらめ

水戸的那珂川の支流に桜川という名前があるが、これは偶然ではなく、水戸光圀が利根川水系の桜川のように桜の名所を水戸にもつくろうと敢えてその名前にし、桜並木を整備したためとも言われている。

また、室町時代には世阿弥による謡曲「桜川」が著されており、磯部付近の桜川での悲話を物語としている。

また桜川は農業用河川として役割を果たしており、新田開発にも大きく貢献した川である。古くは江戸時代に二宮尊徳が桜川上流部に荒廃した青木村を救うべく呼ばれ、青木堰の建設に着手したことで知られている。

このように桜川は歴史的にも産業的にも重要な河川であり、人々に親しまれてきた川である。

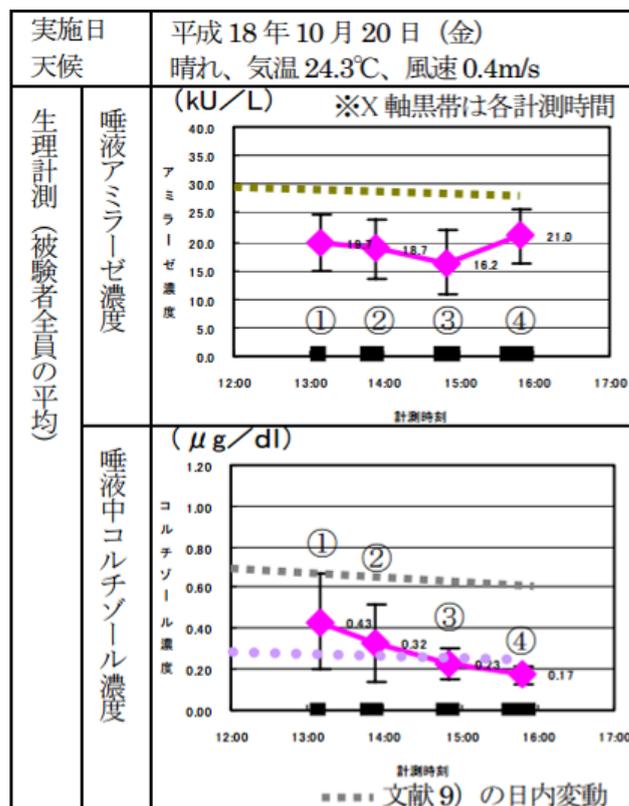


図2 実験結果(国総研資料より)

3. 川の癒し効果

今回、黄昏を求めて桜川にやってきたが、そもそも川に癒しを求めるといのは医学的、科学的見地ではどのように評価されているのであろうか。

国土交通省国土技術政策総合研究所が行った研究(図2)で癒し効果を計測したのものがある。富田らはストレス緩和状態にある際に多く分泌される唾液アミラーゼとストレス状態にある際に分泌される唾液コルチゾールに着目した。会議室で計測した通常時より、河川で計測した際にどのような差があるかを調べた。計測する河川環境は都市部であること、散策など人々が日常的に利用しやすい整備がなされていることを条件に野川と荒川から選定している。

結果、会議室で計測した通常時より河川環境に滞在した場合、唾液アミラーゼ濃度は概ね上昇し、唾液コルチゾール濃度は有意に低下しており、本研究は日常的生活の中で河川環境は急性のストレス緩和効果(癒し効果)があることの可能性を示唆している。

実際に早くから臨床経験から川の癒し効果に着目している病院もある。秋田県由利本荘市の子吉川沿いにある本荘第一病院は日常診療の中での散歩、運動療法、リハビリなどに河川敷を利用する方法、第二にイベントを企画し施設の老人や保育園児などを交えたサマーフェスタ、糖尿病患者さんを中心とする糖尿病リバーサイドウォークラリーなどを実施している。

すなわち、私が川に行ってなんとなく落ち着くということも生理的に理に叶っていたことになる。



図3 小田地区の稲作地帯

4. 土地改良史と桜川

桜川から離れ、道沿いを走っていると広大な稲作地帯が広がっている(図3)。また、田んぼの中に大きな石碑があるのが目についた。寄ってみると、この地区の土地改良に関することを記述した碑でかなり詳細に記されているので、碑の文章を原文のまま記す。

小田地区土地改良事業竣工記念碑

小田土地改良区組合員五百余名の多年にわたる宿願であった三百六十ヘクタール余の耕地は、総事業費二十九億八百万円の巨費と十ヶ年の歳月を費やして、ここに圃場整備事業が完了した。そもそもこの地域は、筑波山系に連なる宝鏡山の山麓に広がり、筑波町のほぼ中央を流れる一級河川桜川の左岸に開けた東西四キロメートル、南北二・五キロメートルの水田地帯である。ここに産する米は、桜川の水及び八幡川常願寺沢の清流を集めて水源とし、古来より良質美味の声価を得て来ている。当地域は歴史的にも大変古くから開拓が進み、中世の豪族小田氏の本拠として栄えた。古文書等によれば天正以前より開かれた水田に引き水をするため、寛永十年に君島村との協定がなされ、小田村組合が桜川上流の土取場に杭打ちして、土のう積みした堰をつくり水源とした。さらに元禄十一年頃導水路の開削に着手し、約一里半の完成を見たのである。その後明治四十三年五月二十二日水利権の許可を受け、土のう堰を取り除き水門を作り、余水吐及び土砂吐を設け、引き続き大正十年四月現在のコンクリート堰に改築し今日に至ったのである。このように小田地区農民の開拓耕筭意欲は大きなものがあつたことを示している。しかし農業振興上、重要な農道、用水路の整備はあまり進まず現在に至っており、農地区画の広狭・曲折・形状の悪さ等さまざまな悪条件が重なって労働生産性の不合理に悩まされて来たのである。この間古文書によると、寛文九年小田村大形村より大田村への水論訴状、寛文十年水論に大田村よりの返答書、同年小田村組合堰三ヶ村水引きにつき議定書、貞享

四年小田村大田村くみ水覚書、元禄四年小田組合大堰水門普請入目割付之覚、元禄十四年小田堰関係証文覚書等々、その当時の騒動や調定は村人の苦勞の連続であり、当時の大きな社会問題であつたことを如実に物語っている。この様な歴史的背景をふまえ、現状の悪条件を打開するために早くから農業経営の基本的条件である土地改良基盤整備事業の重要性が痛感された。又将来大きな発展が期待される研究学園都市の近郊農業地帯への転換を計り、学年地区との調和ある発展を念じながら、県並びに町の指導と発起人及び役員 노력により、昭和五十三年基礎調査に入った。二年間の調査を経て、昭和五十五年組合員五百余名の署名を以て事業申請を行い、同年四月採択を得て事業が着工開始。頑調な工事経過をたどりながら、その後若干の事業計画計画変更があり、特に余水吐大水門の改修等を行い、ここに全工事完了の運びとなった。今や用排水路、耕作道路が整備され、集団化された農地に大型機械化による農業経営の合理化と、農産物物価価格の国際競争にも打ち勝てる農業経営の合理化と、農業生産の選択的拡大が可能となった。今後中核的農業の育成を計り、農産物価格の国際間競争にも打ち勝てる希望が湧いて来たのである。顧みればこの事業の完成は関係当局と役員を中心とした組合員が一丸となり、事業の推進・換地作業・工事の安全遂行等に日夜にわたり努力奮闘したその苦勞の賜物であつた。又大きな希望を胸に秘め、是が非でも事業成功を目ざして、意欲的に取り組んだ多くの先生達の努力があつたことも特筆しなければならない。今ここに記念碑を建立し、その経過と関係者並びに全組合員の名を記し、後世に伝えるものである。

昭和六十二年十一月吉日

小田地区土地改良区 理事長 大曾根通也 撰文

工事概要

着工 昭和五十五年

区画整理工事完了 昭和六十一年度

受益面積 三百六十ヘクタール

総事業費 二十九億八百万円

組合人数 五百十五名

桜川に堰を築いたことで周囲の農業生産性が著しく向上したのがよく分かる。碑文を読むとその川の背景や地域にとってこの農業開発がいかに重要であつたがよく分かる。



図4 夏の桜川と筑波山系（図1と同じ角度）

5. 喧騒から抜け出して

なんとなく出かけられる川が近くにあることは幸せなことだ。日本のあちこちに無数の河川があり、都市部であっても田園部であっても近くに大小さまざまな河川が流れている。皆さんも日常にちょっと疲れてピントが合わなくなった時は川に癒しを求めてみてはいかがだろうか。

川でぼーっと過ごすことで、行き詰っていたことが小さなことと感じられることもあるし、新たなアイデアが浮かんだりすることもある。

1日の中で変化する川風景の移ろいの中で現れる瞬間的な美しさは行った者にしか味わえない。最後に同じ場所の違う時期（夏）の写真を紹介する（図4）。

参考文献

1) 茨城県土木部河川課, 「いばらきの川」の紹介, 第5回桜川と謡曲(桜川), 2011.

2) 富田陽子, 伊藤嘉奈子, 藤田光一, 唾液アマラーゼと唾液中コルチゾールによる河川環境の癒し効果の計測に関する基礎的研究, 土木学会第62回年次学術講演会講演集, 2007.

【筆者について】

坂本 貴啓（さかもと たかあき）

1987年福岡県生まれ。北九州市で育ち、高校生になってから下校途中の遠賀川へ寄り道をするようになり、川に興味を持ち始め、川に青春を捧げる。高校時代にはYNHC（青少年博物学会）、大学時代ではJOC（Joint of College）を設立して川活動に参加する。自称『川系男子』。いつか川系男子や川ガールが流行語になることを夢みている。筑波大学大学院 システム情報工学研究科 博士後期課程 構造エネルギー工学専攻在学中。白川直樹研究室『川と人』ゼミ所属。研究テーマは『河川市民団体における活動量の定量的分析』と題し、河川市民団体の活動がどの程度河川環境改善の潜在力を持っているかについて研究中。最近のお気に入りには秋の川を旅すること。



水辺からのメッセージ No.66

岡村幸二 (JRRN 会員)

犀川慕情：
美しき川は流れたり そのほとりに我はすみぬ…(犀星)



撮影：2014年9月（石川県・金沢市中川除町）

◆室生犀星ふるさとの川

犀川の西に住む犀星が残した「ふるさとは遠きにありて思うもの そして悲しくうたうもの・」（小景異情）。そんな詩情を駆り立てる犀川の風景です。京都鴨川の風景とも重なります。

辰巳用水や大野庄用水は古くから犀川から取水して金沢の町じゅうに水を送っていました。落水の水音を聞きながらジョギングや犬の散歩が楽しむことができる芝張の高水敷は「犀星のみち」として市民に親しまれています。

■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。（JRRN 事務局）

遠賀堀川の未来を考える輪い和い話し夢会議 ～第3回「遠賀堀川の活かし方を探る」開催報告～

長田 孝裕（北九州市立大学/遠賀堀川プロジェクトチーム・JRRN 会員）

1. 日程

2014年10月5日（日）に第3回「遠賀堀川の未来を考える輪い和い話し夢会議—遠賀堀川の活かし方を探る」の運営を行いました。

2. ワークショップ内容

（1）第3回ワークショップの目標

第1,2回それぞれのワークショップで参加者とともに議論して出た問題点や改善策を基にして、遠賀堀川および遠賀堀川周辺を具体的に活用していくか。また、第4回に向けて方向性を固め、次回のワークショップに向けてより活発な意見を出し合うことを目標としました。当日は「駅前・水量班」と「フットパス班」の2つの班に分かれて討論を行いました。

（2）プログラム・内容 <図1>

今回のワークショップの司会は、北九州市立大学の長田孝裕が務めさせていただきました。開会にあたり、「堀川再生の会・五平太」代表の中村恭子さんに主催者として挨拶をしていただきました。

次に、「前回の振り返り」を筑波大学の中前千佳さんと北九州市立大学の岩本晃典さんが第2回の振り返りをしました。参加者の中には、前回欠席していた方もいらっしやったので、今回のワークショップを始めるにあたって理解を深めていただけたと思います。中でも、遠賀川の写真が出てきたときには、参加者から歓喜の声が飛び交う場面もあり、参加者の遠賀堀川への関心の高さが表れていました。

続いて、水量班によるアンケートが行われました。実際にスライドで、遠賀堀川の変化を次々に示すことによって、参加者に対して遠賀堀川への要望や関心を調査しました。

続いて、ワークショップでは、「駅前・水量班」と「フットパス班」に分かれて活動しました。

「駅前・水量班」は、午前中に、室内で前回出た意見を振り返りながら、実際に参加者とともに、堀川沿いをどんな場所にしたいか、ということイメージしてもらいました。イメージしたものをキーワード化していき、付箋に書いてもらい、それを地図上に貼っていききました。（図2参照）また、12か月カレンダーを用いて、遠賀周辺でできるようなイベントを考え、参

加者とともに具体的な案を考えていきました。午後では、イメージした案を実際に絵に描いていきました。午前中に貼った付箋を絵で置き換えていき、午前中で考えた案をさらに具体化していきました。（図3参照）

東田宮兵衛ゆかりの地

～遠賀堀川の未来を考える「輪い和い話し夢会議」～
第3回 遠賀堀川の活かし方を探る

北九州市立大学や筑波大学の学生と一緒に遠賀堀川について存分に夢を語ってみませんか？折尾駅周辺で計画されている再開発事業に合わせて遠賀堀川沿いの将来像をみんなで考え、活用策を行政に提案しましょう。みなさんの想いをかたちにできるチャンスです。

第3回では2班に分かれて様々な角度から遠賀堀川の活かし方を探っていきましょう！

日 時: 2014年10月5日（日）10:00～14:30
集合場所: オリオンプラザ（折尾駅東口徒歩1分）
定 員: 50名程度
参 加 費: 無料

主な内容

①開会式

②第2回のふりかえり
第2回で出た遠賀堀川の課題をふりかえります

③フィールドワークと議論～遠賀堀川周辺を歩いてみる、語り合う～
 ☆「フットパス班」と「駅前・水辺班」に分かれて活動していきます。
 ・フットパス班：実態に外に出て、遠賀堀川の周辺を歩きます。
 ・駅前・水辺班：第2回で出た案をさらに具体化していきます。

④グループワーク
 ・フットパス班：午前で歩いた経路をマップに落としこみます。
 ・駅前・水辺班：具体化した案を絵に描いて表現してみます。

⑤次回へ向けて～活用策の共有～
※第4回は、遠賀堀川の将来像をまとめ、提案内容を作成します。

※「輪い和い話し夢会議」とは輪になって和やかに話すという意味が込められています。

【次回以降の開催予定】
 第4回 11月23日（日）
 * 12月に関係行政機関への提案を予定

主催：堀川再生の会・五平太
 共催：北九州市立大学（都市政策研究所、地域共生教育センター）、筑波大学白川（Ⅰ）研究室
 後援：国土交通省遠賀川河川事務所、福岡県北九州市建設事務所、北九州市
 おりお未来21協議会、吉賀河川図書館、日本河川・流域再生ネットワーク

※本ワークショップは、北九州市の遠賀川流域再生協議会から協賛を受けて実施しています。

図1 第3回ワークショップのプログラム

図2

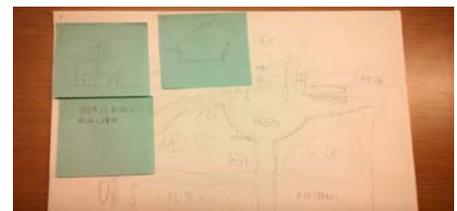


図3



また、「フットパス班」は、実際に外に出て歩き、フットパスというツールを通じて遠賀川周辺のコース（約3km）を歩き、地元の人でも知らないような魅力発見に行きました。（写真1）実際に地図（図4）を持って参加者とともに歩き、遠賀堀川の隠れざる魅力を次々と発見していきました。午後は、室内で、「良かった点」や「改善点」を参加者全員と議論しあい、白熱した議論を展開していきました。ワークショップ当日は、地元・遠方問わず遠賀堀川に関心のある幅広い参加者が集いました。素晴らしい議論を展開することができ、第4回のワークショップに向けて、非常に良い回となりました。（写真2～写真4）

（3）次回に向けて

全4回のワークショップの第3回ということで、各回のワークショップや議論もどんどん白熱していき、参加者の遠賀堀川への想いや要望を目に見える形に出来ていっているのではないかと思います。ワークショップ自体は、次回で最終回となりますが、まだ引き出せていない参加者の要望もあると思います。そのため、第4回でできるだけ多くの要望や夢を出し合い、形にしていけるように精一杯頑張りたいと思います。そして、今回出た課題・改善策を第4回への具体的な提案策の作成に活用していききたいと思います。



（写真1）フットパス班の様子

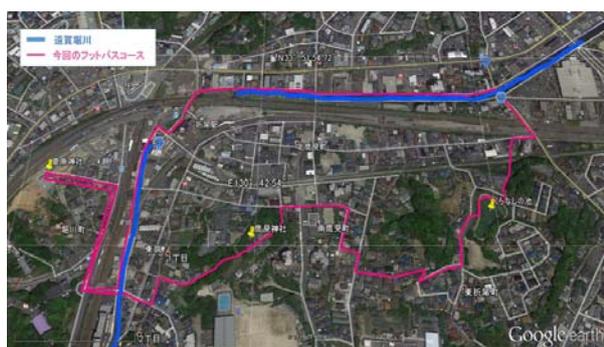


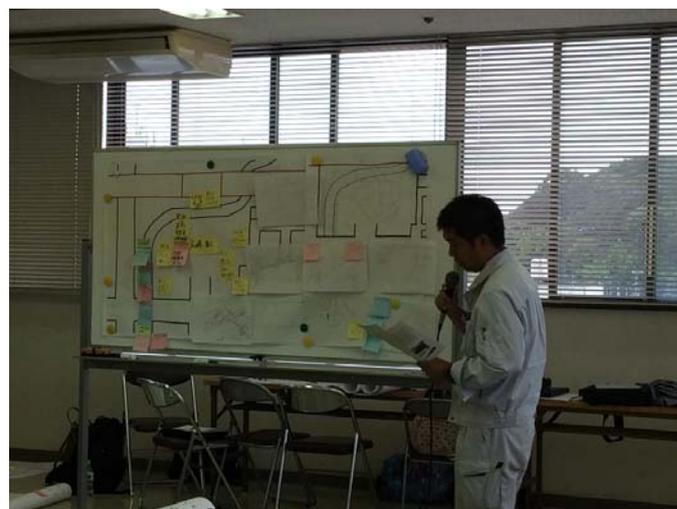
図4



（写真2）当日に開催された年1回の堀川清掃活動（地元の若者も参加）



（写真3）ワークショップの様子



（写真4）参加者による全体発表

なお、「遠賀堀川の未来を考える『輪い和い話し夢会議』の最終回となる第4回『夢の完成！～遠賀堀川の理想像～』は2014年11月23日（日）に開催致します。

●第4回開催案内はこちら

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/1876.html>

【JRRN 会員からの提供情報】

■ 「第 17 回河川生態学術研究発表会」
(11/12・東京)

公益財団法人リバーフロント研究所から「第 17 回河川生態学術研究発表会」のご案内です。

●日時：2014 年 11 月 12 日 (水) 10:30~17:00

●場所：発明会館ホール (東京都港区)

●主催：河川生態学術研究会, 応用生態工学会

●参加費：無料

●定員：250 名程度

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/1861.html>



【JRRN 会員からの提供情報】

■ 「ゆつらーつと矢部川&第 7 回矢部川楽校『鰻は!? 蛭は!? シチメンソウは!? 矢部川の生物多様性を考える』講演&討論動画 (2014 年 10 月)」案内

「矢部川をつなぐ会」より、「ゆつらーつと矢部川&第 7 回矢部川楽校『鰻は!? 蛭は!? シチメンソウは!? 矢部川の生物多様性を考える』講演&討論動画 (2014 年 10 月)」をご案内頂きました。



- 生物多様性 基調講演(島谷幸宏九州大学教授)
- 多様な魚を育むクリーク網
- 矢部川の塩生植物 生物多様性
- 矢部川生物多様性 パネル発表
- 矢部川生物多様性についての討論

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/1867.html>

【JRRN 会員からの提供情報】

■ 「ミツカン水の文化フォーラム 2014『水都ルネッサンス』」 (11/20・東京)

古賀河川図書館 (JRRN 団体会員) の古賀邦雄館長 (「ミツカン水の文化センター」アドバイザー) より、11 月 20 日 (木) に開催されるミツカン水の文化フォーラム 2014『水都ルネッサンス』のご案内を頂きました。



◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/1858.html>

【JRRN 会員からの提供情報】

■ 「第 184 回 河川文化を語る会」 (12/13・山口)

JRRN 団体会員である公益社団法人日本河川協会から河川文化を語る会のご案内です。

【第 184 回】

◆テーマ：「1 尾の魚から始まった生物観察会」

◆講師：奥田 賢吾 (おくだ けんご) 氏 (画家)

◆日時：平成 26 年 12 月 13 日 (土) 14:00~16:00

◆場所：山口市菜香亭 2F 会議室 (山口市天花 1-2-7 TEL: 083-934-3312)

◆参加費：無料

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/1870.html>

【海外からの提供情報】

■ 「ECRR (欧州河川再生センター) の最新ニュースレター」ご紹介

ECRR (欧州河川再生センター) の最新会報 (2014 年 9 月号) を ECRR 事務局より送付頂きました。

本号では「魚道国際会議 2015」や「欧州ラムサール会議」案内、欧州 Water Frame Directive (水指令) と Flood Directive (洪水指令) の融合の必要性、欧州全体の河川再生データベース・RiverWiki などが紹介されています。

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/1839.html>



【海外からの提供情報】

■ 「RRC (英国河川再生センター) の最新会報 (Bulletin)」ご紹介

RRC (英国河川再生センター) の最新会報 (2014 年 10 月号) を RRC 事務局より送付頂きました。

本号では、RRC 年次講演会 2015 論文募集案内、欧州河川賞授賞式予告、欧州での河川再生に関わる国際会議等への RRC 参加報告等が関連資料とともに紹介されています。



◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/1864.html>

(国内の河川・流域再生に関する主なイベント) ※前頁でご案内した行事は本欄では掲載していません。

■2014年度魚類学会シンポジウム「日本の外来魚問題の現状を考える」
 ○日時：2014年11月17日(月) 13:00-17:30
 ○主催：日本魚類学会
 ○場所：神奈川県立 生命の星・地球博物館(小田原市)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2015.html>

■総合土砂管理研究フォーラム～河川の「メンテナンス」と「環境の保全・再生」
 ○日時：2014年11月20日(木) 13:20～17:30
 ○主催：国土交通省水管理・国土保全局 他
 ○場所：国土交通省中央合同庁舎(東京都千代田区)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2033.html>

■遠賀堀川の未来を考える『輪い和い話し夢会議』第4回 夢の完成! ～遠賀堀川の理想像～
 ○日時：2014年11月23日(日) 10:00～15:00
 ○主催：堀川再生の会・五平太 他
 ○場所：オリオンプラザ(福岡県北九州市)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2043.html>

■第2回流域管理と地域計画連携方策ワークショップ
 ○日時：2014年11月25日(火) 14:00～17:00
 ○主催：土木学会
 ○場所：土木学会講堂(東京都新宿区)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2037.html>

■九州の川を語りもんそ in 川内川～第14回九州「川」のワークショップ～
 ○日時：2014年11月29日(土)～30日(日)
 ○主催：実行委員会
 ○場所：鹿児島県薩摩川内市国際交流センター
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2045.html>

■基礎水理シンポジウム 2014—移動床水理学が生態系保全に果たす役割
 ○日時：2014年12月1日(月) 9:30～16:30
 ○主催：土木学会
 ○場所：土木学会講堂(東京都新宿区)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2039.html>

■平成26年度「河川教育研究交流会」
 ○日時：2015年1月31日(土) 10:00-17:10
 ○主催：公益財団法人 河川財団
 ○場所：東京海洋大学品川キャンパス(東京都港区)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1999.html>

(海外の河川・流域再生に関する主なイベント)

- 2014.11.19-21 (マリキナ/フィリピン) 2nd Philippine International River Summit
- 2015.3.6-8 (ダッカ/バングラ) 5th Int. Conf. on Water and Flood Management
- 2015.4.12-17(Daegu/韓国) 7th World Water Forum
- 2015.6.28-7.3(ハーグ/オランダ) 36th IAHR World Congress
- 2016.7.27-29(リエージュ/ベルギー) 4th IAHR Europe Congress
- 2016.9.19-22(Stuttgart/ドイツ) 13th Int. Sympo. on River Sedimentation

書籍等の紹介 Publications

■ 環境保全・再生のための土砂栄養塩類動態の制御 (2014.10 発刊)

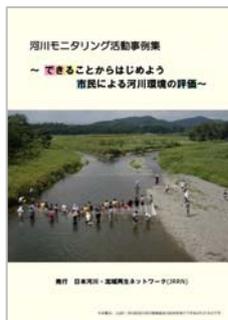
- ・監修：池田駿介・菅 和利
- ・編集：国土文化研究所
- ・出版社：株式会社近代科学社
- ・価格：4,000円+税
- ・出版年月：2014年10月



JRRN 事務局を共同運営する(株)建設技術研究所国土文化研究所より2014年10月に発刊されました。本書は、陸・川・海における水・土砂栄養塩類の移動・制御、およびそれらが生物・生態系に及ぼす影響を野外や実験室において行った研究の成果など、自然環境再生に向けた新たな視座が紹介されています。

■ 河川モニタリング活動事例集～できることからはじめよう 市民による河川環境の評価～(2014.3 発刊)

- ・執筆協力：河川再生に携わる市民団体や行政機関
- ・発行：日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)
- ・出版年月：2014年3月



市民が主体的に取り組む河川環境のモニタリング活動の実態を調べ、各地のモニタリング活動事例や市民による河川モニタリング活動の更なる活性化に向けたヒントを紹介しています。

※本冊子の入手方法

JRRN 事務局までご連絡ください。送料のみご負担頂いた上で、無料で提供致します。(JRRN 会員限定)
info@a-rr.net / 電話：03-6228-3862

■ JRRN の登録資格 (団体・個人)

JRRN への登録は、団体・個人を問わず無料です。
市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

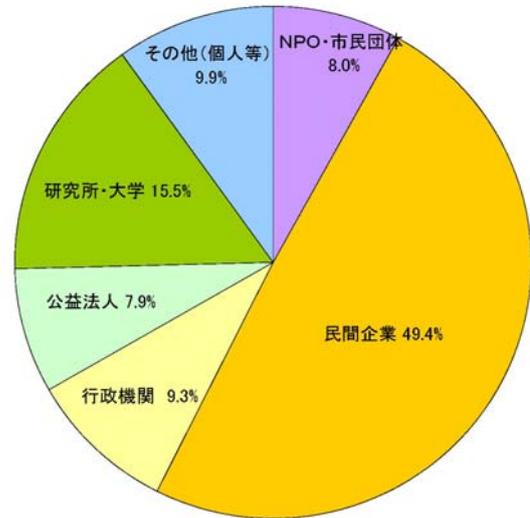
会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週 1 回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2014年10月31日時点の個人会員構成
(個人会員数：674名、団体会員数：53団体)

JRRN 会員特典一覧表(団体会員・個人会員)

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局



〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 新川中央ビル7階

公益財団法人リバーフロント研究所 内

Tel: 03-6228-3862 Fax: 03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net

URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>

JRRN 事務局は、「アジアにおける河川再生のためのネットワーク構築と活用に関する研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

